

徳島県阿南市立津乃峰小学校は、橘湾に面した立地で津波被災のおそれがあります。そこで、毎月避難場所を変えた避難訓練を実施しているだけでなく、予告なし訓練、登下校時の訓練にも取り組んでいます。児童は、何度も訓練を繰り返すうちに、「津波が来るぞー」と叫びながら避難できるようになってきました。

普段から地震や津波のことを考える学習を教科内で実施(防災クロスカリキュラム)し、総合的な学習の時間ではフィールドワークにも取り組んでいます。バスでの親子避難所宿泊体験学習や地域の避難所を活用した学習、保育所への出前授業や防災マップの配布等、地域への啓発を積極的に行い、地域の方々とのつながりを深めました。

## 1 目的・きっかけ

児童や保護者は、防災を自己の問題として捉えられていませんでした。南海トラフ巨大地震が発生した場合、本校区は激しい揺れの後に、5.6mの津波で全域が水没するため、家庭や地域と連携した防災教育を推進していくことにしました。また、自助・共助・公助の視点を踏まえた防災スキルを段階的に身に付けていくことにしました。



親子避難所宿泊体験学習

## 2 活動内容

### ① バスによる親子避難所宿泊体験学習

バスでの親子避難所宿泊体験学習は、年に2回行っています。2次避難場所、津乃峰地区防災公園の施設を使った非常食作りやHUG(避難所運営ゲーム)等の防災活動を自主防災会の方々や保護者、児童が一緒になって行い、翌朝まで3次避難場所でのバスの宿泊体験をします。

### ② 防災学習・フィールドワーク

普段の学習から、いつも「津乃峰町で地震がおきたらどうなるかな?」ということを考えており、様々な教科で学年に応じて、自分の命を守るの大切さや避難方法、被災時に役立つことを知る学習をしています。特に、地域の方からの昔の津波の話やフィールドワークでの学習を大切にすることで、地域での防災への知識や意識を深めています。



避難所巡りウォークラリー

また、異学年グループで行う防災学習校内オリエンテーリングでは、被災シミュレーションや大声で叫ぼう・心肺蘇生法等をし、避難所巡りウォークラリーでは、津乃峰町の避難場所を協力しながら確認することで、どんな状況でも助かる力が身につくようにしています。

### ③ チャレンジクラブ

平成28年度に発足したチャレンジクラブ



募金よびかけ



防災ずきん配付

は、毎月1回、4年生～6年生が「まず自分たちでできること」をテーマに、防災に関することを話し合い活動しています。東日本大震災や熊本地震で被災された方から学ぶ学習をした後で、児童たちでできる募金を全校児童によびかけました。また、避難所生活に役立つことを考え、実際に簡易トイレ作り・非常食作り、テントの設営、段ボールベッド作り、簡単な防災グッズ作り等をし、活動内容を全校に紹介しています。

#### ④ 地域への発信

平成27年度から児童が作成した安全安心防災マップを地域の方に配っています。平成28年度の5・6年生が作った地域ごとのマップは、地域の避難所での防災マップの発表会で、地域の方と意見交換もしてよりよいものへ仕上げ、配付しています。

このように児童が学んだことを地域の方と共に考える場は、全町運動会にもあり、競技種目「地震の仕組みを考えよう」では、6年生と自主防災会の方々が一緒になって、緊急地震速報システムのしくみについて運動場で表現しました。また、低学年児童が地震・津波・火事の避難を2人組でする「めざせ！防災リーダー」という競技種目をチャレンジクラブが考案しました。

その他、4年生が作製した「避難誘導標識」の看板をお店等に設置させていただいたり、各家庭に「ひなんした」カードをお届けしたりしました。

地域の高齢者の方には、5年生が家庭科で習ったなみぬいをうい作製した防災ずきんをお届けしています。保育所の子どもたちへも、毎年1年生と5年生が出前授業をしています。津乃峰町の全ての人々が助かって欲しいという、児童の思いから様々な活動をしています。

#### ⑤ 避難訓練の実施

毎年6月末までに、1次避難場所の運動場、その後、2次避難場所・3次避難場所までの避難訓練と、段階を追って進めていきます。全校児童で避難する時は6年生が1年生の手を引いて連れて行きます。5年生が一番最後です。避難訓練は、授業中、休み時間、清掃時、下校時等、様々な活動時間に行います。教職員にも予告しない避難訓練も行います。

毎年6月の防災学習参観日では、参観授業の後、3次避難場所までの親子避難訓練・引き渡し訓練も行います。

### 3 成果

児童に、主体的な行動力が身に付き、将来、地域の防災リーダーになるという自覚も育ってきました。人とのつながりの大切さを感じ、思いやり・互いの人権を大切にする心・ボランティア精神が育ち、地域への愛着も深まってきました。また、地域や企業との連携体制が構築され、地域と共に主体的に行動する防災教育が推進できました。